

『福翁自伝』の真実 ～福沢諭吉翁の生涯から探索～

『起』 (1835 年～1853 年＝ペリー来航の年) 1 歳～18 歳 『揺籃期』

- ① 1835 年 1 月 10 日、大阪で生まれ、1836 年 6 月 18 日に父百助が病死すると、母子 6 人は中津に帰り、以後少年時代を中津で過ごした。
- ② 幼少の頃から酒が好き、運動は苦手。家風が中津の風に合わない。
- ③ 12～13 歳頃から白石照山より漢学を、中村庄兵衛より居合いを、学ぶ。
- ④ 成長するにつれて、封建門閥制度の束縛に不満をもつようになる。

『承』 (1854 年～1867 年) 19 歳～32 歳 『充電期』 西欧文明を学ぶ

- 1 1854 年(19 歳) 中津から長崎に出て、蘭学を学ぶ。
- 2 1855 年(20 歳) 長崎から大阪に出て、緒方洪庵の適塾に入門する。
- 3 1858 年 藩の命令で大阪から江戸に出て、築地鉄砲洲の奥平家中屋敷の中の小さな長屋の一軒で蘭学の家塾を開く——慶応義塾の起源
- 4 (1858 年 日本は米・蘭・露・英・仏 5 カ国と修好通商条約の調印)
- 5 1859 年 横浜を見学して、これまで学んだオランダ語が実地の役に立たぬことを知り、思い切って英語に転向する。辞書を頼りに独学で研究。
- 6 1860 年 (25 歳) 1 月に軍艦咸臨丸に乗って、アメリカ西海岸に行く。
- 7 1861 年 (26 歳) 鉄砲洲から新銭座に転居し、錦さんと結婚する。
- 8 1862 年 (27 歳) ヨーロッパ派遣の幕府使節の翻訳方随員として 1 月に出發し、フランス、イギリス、オランダ、プロシア、ロシア、ポルトガル、の 6 カ国を巡り 12 月に帰国する。国内では「攘夷」が旺盛の世の中になっていたが、諭吉は毅然として「開国」を主張する。
- 9 1864 年～1866 年(29 歳～31 歳) 幕臣として幕府を支持し「幕府強化論」を唱え、1866 年に「長州再征に関する建白書」を幕府に提出する。
- 10 1867 年 (32 歳) 1 月に幕府の軍艦受取委員の随員として、再びアメリカに行き、東部諸州の諸都市を見て、6 月に帰国。公然と幕府打倒を叫ぶ。

『転』 (1868 年～1881 年) 33 歳～46 歳 『放電期』 文明開化に邁進

- 1 1868 年＝明治元年(33 歳) 4 月に家塾を築地鉄砲洲から芝新銭座に移し、慶応義塾と命名する。上野彰義隊の戦いの砲声を耳にしながら、ウエーランド経済書の講義をする。
- 2 1871 年＝明治 4 年(36 歳) 3 月に慶応義塾を新銭座から三田に移し、これと共に転居する。(7 月廃藩置県。10 月岩倉具視らを欧米に派遣。)

- 3 1872年=明治5年(37歳) 「学問のすゝめ」初編刊。
- 4 1875年=明治8年(40歳) 「文明論の概略」刊。
- 5 1880年=明治13年(45歳) 1月に 交詢社を起こす。
- 6 1881年=明治14年(46歳) いわゆる「明治14年の政変」によりあらぬ嫌疑を受ける。井上毅が大隈と福澤を陥れた黒幕であったが、福澤は知らない。

『結』（1882年～1901年）47歳～66歳『収束期』独立自尊を推進

- 1 1882年=明治15年(47歳) 3月に 時事新報を発刊。朝鮮の独立に関与。
- 2 1884年=明治17年(49歳) 12月に甲申事変（福澤関与）に失敗し、日本に亡命した朝鮮独立党の金玉均、朴泳孝らを、福澤の別邸にかくまう。
- 3 1885年=明治18年(50歳) 「時事新報」社説に、「脱亜論」を発表。
- 4 1894年=明治27年(59歳) 日清戦争を「文野の戦争」として支持する。
- 5 1898年=明治31年(63歳) 5月「福翁自伝」脱稿。翌年6月発刊。
9月26日、脳溢血に罹る。
- 6 1901年=明治34年(66歳) 1月に「瘠我慢の説」（明治24年脱稿）を発表。
1月脳溢血症再発。2月3日午後10時50分、三田慶応義塾内の自邸にて長逝。
法名は、「大観院独立自尊居士」

以上

『福翁自伝』の目次

- 『起』 1. 幼少の時
 『承』 2. 長崎遊学
 『承』 3. 大阪修業→ 4. 緒方の塾風→ 5. 大阪を去って江戸へ行く
 『承』 6. はじめてアメリカに渡る
 『承』 7. ヨーロッパ各国に行く→ 8. 攘夷論
 『承』 9. 再度米国行
 『承』～『転』 10. 王政維新
 『転』～『結』 11. 暗殺の心配→ 12. 雑記→ 13. 一身一家経済の由来
 → 14. 品行家風
 『転』～『結』 15. 老余の半生